

# 第65回三島市美術展 入賞者一覧

## 【日本画の部】

賞	目録No.	氏名	題名	サイズ
市長賞	6	和田 としこ	初夏	F20号
議長賞	7	佐藤 末美	水車小屋	F20号
教育長賞	5	中山 ちづ	泰山木	F40号
実行委員長賞	11	山田 淳子	風のゆくえ	F50号
舜堂賞	17	渡邊 千鶴子	酔芙蓉	F30号
奨励賞	15	勝又 まゆみ	ヘブンリーブルー	P12号
奨励賞	16	山崎 則夫	山梔子	F30号

### 〔審査員講評〕

出品された作品は全部に賞をつけたい秀作揃いです。それぞれ心の思いが、感動が伝わって来ます。

市長賞の「初夏」はビワの実、葉の描写力が見事でした。議長賞の「水車小屋」は複雑でユニークな色彩表現に力量を感じました。教育長賞の「泰山木」は葉の色の美しさ、花の構成が魅力的でした。賞にこだわらず自己表現に励んでくださることを期待いたします。

審査員 安倍 修三郎、岡 和子、柘植 好子

## 【洋画の部】

賞	目録No.	氏名	題名	サイズ、技法
市長賞	36	松永 庸子	ゆりの庭のお客様	S50号、アクリルクレパス
議長賞	52	森 久子	舟屋の昼下り	F100号、油彩
教育長賞	53	安藤 幸子	My pace-Ⅲ	80号、油彩
実行委員長賞	54	外川 雄章	春の息吹	F80号、油彩
舜堂賞	50	小野 登志子	「まで、まで～！！」	F50号、油彩
奨励賞	21	山本 佳奈	山中城跡・新緑	10号、水彩
奨励賞	49	澤野 史朗	海岸通り	F50号、油彩
奨励賞	51	淵沢 護郎	白糸の滝	P30号、油彩
奨励賞	55	泉明寺 みずほ	無題	F15号、油彩
奨励賞	19	福盛 順子	光と影の季節	F80号、油彩

### 〔審査員講評〕

出品数も多く、いろいろなモチーフや技法を試みようとする姿勢に好感が持たれた。

一面、おそらく数多く描かれてきたと思われる方々の中にはややパターン化や、慣れから生じる新鮮さの喪失など、問題点も見られた。

入賞された作品では、ユニークな発想で、ユーモアに溢れた雰囲気をかもししているものや、物の質感をとことん追求しているものなど、見応えを感じた。

全般的には、具象的な作品が殆どであったが、今後、抽象画やデザイン的な表現にも挑戦してほしいと願う。

また、自己の体験や経験をもとに、継続した取り組みを期待している。

審査員 川合 朋郎、高梨 芳実、萩原 芳男

## 【彫刻・工芸の部】

賞	目録No.	氏名	題名	技法
市長賞	6	福澤 素子	華屏風	日本刺繍
議長賞	15	望月 洋子	皮象嵌 麦の穂	皮の象嵌・染色
教育長賞	14	長澤 武司	赤銅 象嵌 銘々皿 夜桜	金工
実行委員長賞	26	渡辺 潤	夏・蘭	陶芸
舜堂賞	20	関 直人	木のぬくもり	木工
奨励賞	8	吉田 健一	無彩波状文花器	硝子

### 〔審査員講評〕

今回も出品数が少ないのは大変残念な事でしたが、内容が素晴らしく、その作品への意欲と努力に対して頭が下がるような思いを致しました。

賞をあげたい作品も多々ありましたが、もう一工夫され来年に期待しようと保留したのが少々辛い思いでした。

審査員 長島 豊彦、福地 孝行、渡辺 玲子

## 【写真の部】

賞	目録No.	氏名	題名
市長賞	40	小林 眞弓	やぎさん こんにちは
議長賞	30	藤原 英修	歓喜
教育長賞	80	岩谷 夕起子	あかつき
実行委員長賞	75	天野 常夫	舞台が気になって
舜堂賞	6	山田 章雄	光明
奨励賞	62	宮澤 幸代	URURUの街で
奨励賞	11	伊藤 勝男	水辺の集い
奨励賞	19	野辺 修身	凝視
奨励賞	16	佐野 良治	けあらしに舞う
奨励賞	77	神田 照子	あそぼ！
奨励賞	49	深瀬 昇	明日を見つめて
奨励賞	58	佐藤 勝次	春の調べ

### 〔審査員講評〕

今回は作品の出品数が多く、被写体の捉え方やプリント等も全体的に向上しているように感じました。その一方、優れた作品の中にも、類型的で個性が感じられなくなってしまっているものや、プリントの仕上げ、ピントのはずれ等で損をしている作品も見られました。作者の感性を大切に、かけがえのない作品づくりに努めていただきたいと思います。

審査員 露木 義光、南波 進、村上 益男

## 【書道の部】

賞	目録No.	氏名	題名
市長賞	10	松田 雅子	あしひきの
議長賞	11	久保田 山吹	聖果寺
教育長賞	9	高田 杏華	由良のとを
実行委員長賞	41	杉本 敏翠	劉得仁詩
舜堂賞	8	門崎 菁華	春夏秋冬～万葉集より
奨励賞	16	三浦 文子	むれたちて
奨励賞	32	加藤 里楓	孟浩然詩
奨励賞	26	山田 翠穂	次北固山下
奨励賞	13	河野 浩美	百人一首

### 〔審査員講評〕

多くのジャンルからの出品があり、幅広い勉強をされていることは、好感が持てた。  
どの作品もよく研究されたあとが見られ、余白を生かした作品が上位を占めた。今後の精進を期待する。

審査員 高田 暁華、西嶋 恵舟、増田 文杏